

# 統計教育大学間連携ネットワーク 質保証委員会のミッション

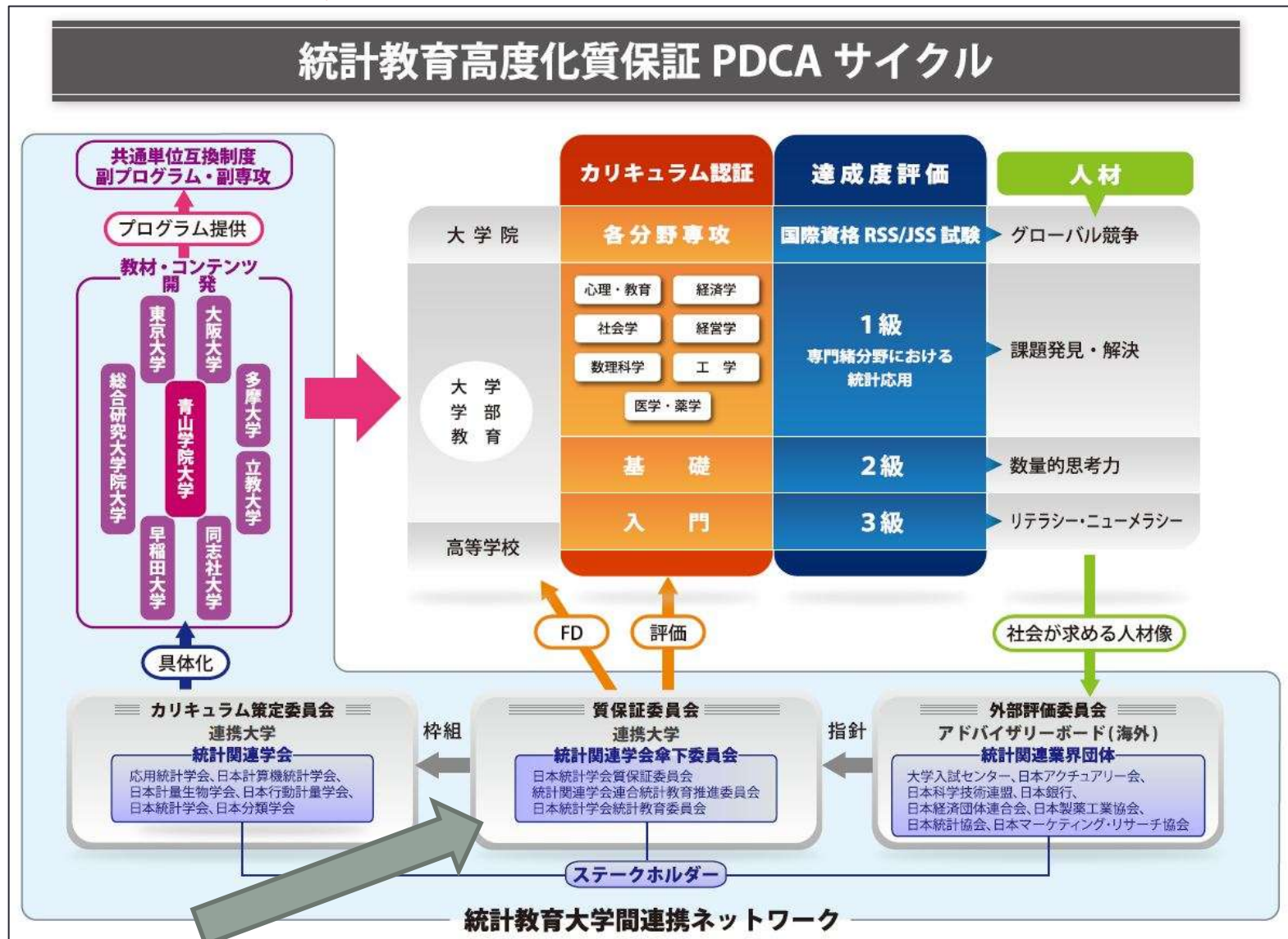
---

質保証委員会・委員長

成蹊大学理工学部・教授

岩崎 学

# 質保証委員会の位置付け



# 質保証委員会の構成

- 統計関連学会連合6学会  
応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会,  
日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会
- 連携8大学  
青山学院大学(代表校), 東京大学, 大阪大学, 多摩大学, 立教大学,  
早稲田大学, 同志社大学, 総合研究大学院大学
- 統計関連学会連合・統計教育推進委員会(田栗正章委員長)  
のメンバーに, 連携8大学からの委員およびそのほか若干名  
を加えて構成.

# 目的とミッション

- 実社会に求められる課題発見・解決能力に照らしつつ「統計学分野の教育課程編成上の参照基準」(以下, 参照基準: 後述)を改訂し, 最終的には各大学のカリキュラムの認証機能の実現を目的とする.
- 外部評価委員会が定める指針に準拠して参照基準の改訂作業を進め, 統計教育の枠組みをカリキュラム策定委員会に提示
- 各大学が実施する教育に対して, FD活動の活性化およびカリキュラムの認証・評価の枠組を検討
- 統計検定との連携を具体化する作業として, 統計関連学会と協力しながら, 財団法人統計質保証推進協会が実施する統計検定を拡充した「統計教育達成度評価システム」の開発に着手

# 参照基準 - 1

- 平成22年8月20日策定
- 統計関連学会連合理事会および同 統計教育推進委員会
- 各大学の教育課程編成に当たって、学生に求める価値観・倫理観や基本的な素養(知識・能力・スキル)を教育目標として定め、そのために必要な**学習内容・学習方法を具体的に検討する際に参照されるべき基準**
- 統計学分野に関連する具体的な職業生活を想定し、それを支える基礎を如何に培うかという観点

# 参照基準 - 2

- 構成要素
  - (i) 当該分野の理念
  - (ii) 到達目標(身に付けるべき知識・能力・スキル)
  - (iii) 目標を達成するための教育内容・評価方法の例
- 第1節: 策定に際しての基本的考え方のまとめ
- 第2節: 参照基準の基礎となる“統計学の考え方・ポイント”
- 第3節: 8つの分野別の参照基準
  1. 大学基礎科目
  2. 心理学・教育学
  3. 経済学
  4. 社会学
  5. 経営学
  6. 数理科学
  7. 工学
  8. 医学・薬学

# 参照基準の記載例(3.3 経済学分野)

## 3.3.1 当該分野の理念

経済学分野における統計学は、ミクロ経済学やマクロ経済学といった経済理論と併せて主要な科目として位置づけられている。

## 3.3.2 到達目標(身に付けるべき知識・能力・スキル)

- (1) 経済データの活用と表現に関する能力
- (2) 事象の確率的な構造を理解する能力
- (3) 仮説検証能力
- (4) 統計ソフトウェアを活用した大規模データの計量経済分析の能力

## 3.3.3 目標を達成するための教育内容・評価方法の例

- ① 経済データの活用と表現手法
- ② 事象の確率的な構造を理解するための方法
- ③ 計量経済学に関連した方法
- ④ 発展的な内容
- ⑤ 統計ソフトウェアを活用した大規模データの計量経済分析

### [評価方法]

経済学分野の統計教育において育成すべき能力を評価するに当たっては、上記の教育内容に関する理解をレポート、試験等で評価する。

# 平成24年度の活動内容

- 4回の委員会開催

- 第1回:2012年11月17日(土), 第2回:2012年12月15日(土), 第3回(予定):2013年1月12日(土), 第4回:未定(年度内に開催)

- 活動予定

- (1) 統計教育のための参照基準の改訂

- 現在の「参照基準」の読み込みによる問題点の洗い出し
    - 新たな方向付けの可能性, 具体的な文章の作成, 全体の整合性を図った取りまとめの作業

- (2) 統計教育の枠組みの作成

- 大学・大学院における標準的カリキュラムの策定方針を構築
    - 大学以後の教育を見据えた上で, 小・中・高の統計教育の内容の吟味

- (3) カリキュラムの認証・評価の枠組の検討

- 海外の事例(RSS, ASA等)を参考にした認証評価の枠組み作成の検討を開始